



歴史のドアを開けよう

Natural History
第59回

いしかり博物誌

■文化財課 ☎72-6123
bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp

■石狩浜海浜植物保護センター ☎60-6107
ihama@city.ishikari.hokkaido.jp



▲三日月形の沼。もとは発寒川の一部でした。

石 狩市の南部を東西に流れている発寒川は、札幌市との境界線になっていきます。しかし地図をよく見ると、境界線はぐにやぐにやと曲がりくねって、川の流れとぴったり一致していません。なぜでしょうか。

緑 苑台地区で川沿いに歩いていくと、石狩市側に木が生い茂っている帯があります。近づいてみると、その木々に囲まれて沼があるのが分かります。よく見ると沼は川のように細長く三日月のような形で、両端は発寒川とぶつかるあたりで終わっています。この沼こそ、かつて発寒川の一部だったところなのです。河川改修で本流から切り離されてできた沼で、いわば「見捨てられた川」です。しかしそのおかげで、かつての自然環

境が今でも残されています。そこにはどんな動植物が見られるのか、今年の春、石狩自然誌研究会の皆さんと、簡単な調査をしました。まず、沼の周りを縁どるように、ヤナギやヤチダモなどが見られます。これらはどれも湿地や水辺に生える木で、川沿いの林「河畔林」だったことが分かります。また、岸からタモ網を使って水生生物を探ってみましたところ、イバラトミヨを発見しました。体長5cmくらいの魚で、発



▲イバラトミヨを発見！

※水辺は足場が悪く、周辺には深い排水溝がたくさんあります。危険ですので、一般の方は近寄らないでください。

市 内にはこのような小さな水辺はまだたくさんあります。いずれも、昔の姿を残していたり、いろいろな動植物の生息場所となっている、貴重な自然環境です。
(いしかり砂丘の風資料館 志賀健司)

見捨てられた川

寒川本流でも生息が確認されています。このほか、季節によつてはカモのよいうな水鳥もやってくるようです。続けて調査してみれば、いろいろな発見がありそうです。